

特別企画 2

重症心不全患者の退院支援 “退院後を見据えた心臓リハビリの可能性を徹底討論する”

心不全患者は長期にわたる疾病の軌跡の中で筋力低下を含む身体的デコンディショニングに伴い ADL は低下し、精神的デコンディショニングも併発し、QOL は著しく低下する。

心臓リハビリテーションにはその過程を止め、さらには改善することが期待されているが、重症患者や多疾病合併患者では低強度の運動療法の実施に留まり、食思も低下し、介入に難渋している実情がある。

本セッションでは、教科書的な知識だけでは対応の難しい、多疾病合併重症心不全の退院支援を、入院中の取り組みから退院後の継続支援まで明日からできる工夫を念頭に複眼的視点から症例検討を行いたい。

座長:

北里大学病院 理学療法士 神谷健太郎/

兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科 大石 醒悟

事例提示:

琉球大学病院 循環器内科 相澤 直輝/看護師 佐久間博明/理学療法士 呉屋太造

① 重症心不全症例の入院中の経過

② 退院後の在宅での取り組み

ミニレクチャー:

*理学療法の工夫:

枚方公済病院 理学療法士 岩津 弘太郎

*栄養（食思不振のある方への対応を含めて):

近森病院 栄養士 宮島 功

*在宅でできる心臓リハビリテーション:

ゆみのハートクリニック 理学療法士 古田 哲郎

*在宅へつなぐ意思決定支援(Advance Care Planning):

県立尼崎医療センター 慢性心不全看護認定看護師 鷺田 幸一

コメンテーター:

聖路加国際病院 循環器内科 西畑 庸介

日本医科大学武蔵小杉病院 慢性心不全看護認定看護師 石田 洋子